

第7回定例会
ミニ・レクチャー

ナチュラルアプローチにおける
シラバスとは何か？

木村晴美
国立障害者リハビリテーションセンター
学院・手話通訳学科

シラバス(syllabus)
教えるべきことの一覧表

一般的には...

プログラムの目的や内容および教授法や評価をさす

指導目的に応じて内容を編成する

シラバスのタイプ

文法シラバス	教えるべき文法項目の一覧表(易→難へ)。
構造シラバス	教えるべき文型の一覧表(易→難へ)。多くのテキストで採用。
場面シラバス	学習者がコミュニケーションする必要がある「場面」を集めて作成したもの。難易度考慮なし。限定。
話題シラバス	学習者の学習目的「話題」を集めて編成したもの。各話題で必要とされる自然な言語表現を教える。
技能シラバス	「聞く」「話す」「読む」「書く」各技能の具体的な使用目標を集めて編成したもの。「紹介状を書く」等。
機能シラバス	コミュニケーション機能を集めて編成したもの。依頼、命令、拒絶、感謝等の項目別に編成。
概念シラバス	言語の概念を教授項目にしたもの。時間、頻度、順序量、手段等の概念別に編成。
タスク・シラバス	達成すべき課題(タスク)を集めて編成したもの。「本の注文」タスクなら、注文フォームを書く等。

ナチュラル・アプローチの
授業目標

個人的コミュニケーションの技能を伸ばす

初級

中級

上級

易
↓
難

シラバス編成

場面(situations)
機能(function)
話題(topics)

アカデミックな学習機能を伸ばす

ナチュラル・アプローチ
シラバス＝「話題シラバス」

同じ話題(家族)でも段階によってシラバスは異なる

[初級] 教師が自分の家族について話す
生徒に家族のことをたずねる

[中級] 家族ひとりひとりの性格について話す
変わった親戚について話す

[上級] 夫婦別姓の是非について議論する
⇒ 話題に応じてインタラクションや導入すべき語を編成する

参考文献

- 『ナチュラル・アプローチのすすめ』(1986)
S・クラッシュェン、T・テレル 大修館書店
- 『外国語教育学大辞典』(1999)
K・ジョンソン、H・ジョンソン 大修館書店
- 『はじめての日本語教育 [基本用語辞典]』(1997)
高見澤孟(監修) アルク